
神様なんて大嫌い

鈴木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様なんて大嫌い

【Nコード】

N9673M

【作者名】

鈴木

【あらすじ】

僕と君の、切ない話。

(前書き)

後日読み返した感想：「なんぞこれ」

これをふまえてお読み下さい。

「篠、大好きだよ！」

そういつてくれた君が、なんとなく眩しくて。

僕の後を必死についてくる君はなんだかわいくて。いつまでも一緒にいたいと思った。

「篠、私ね、男の人が怖いの！ お母さんも、お父さんも、男の人に殺されちゃったの！」

「そうなんだ、じゃあ人を憎んでいるのかい？」

「うん、篠以外の人間はあんまり好きじゃないなあ。でもね、私は神様が一番嫌い。神様があんなふうに運命を捻じ曲げちゃったんだよ。だから神様は大っ嫌い」

「そうか、そうだね、僕も、神様は大嫌いだよ」

出会った場所は森の奥深くだった。

道に迷った君ががけから落ちてきて、僕はその下敷きになって。君が大声を上げてなくから、僕はとつても困ってしまつて。

そばにあつた林檎をあげたら、君は暖かい笑顔を見せてくれたね。

そんな君が、先日、君の両親と同じ死に方をした。

人間の罫にかかり、殺されてしまった。

僕は罫を仕掛けた男の目を盗んで、君を山の奥に連れ戻した。

君は人間の姿に化けて僕に会いに来ていたんだね、子ぎつね。

もっと早く気が付いていれば、君が山から下りるのを引き留めたのに。

ごめんね、子ぎつね。

君の両親の運命になんか気が付かなくて、止められなくて、知っていても、止める気がなかったよ。ごめんね。

僕は、何もできないんだ。

ねえ、君をこれから、もう一度生き返らそうとしたら、君は怒るかな。

だって、とつても君と過ごした時間は、楽しかったんだ。

本当に駄目な神様でごめんね

(後書き)

神様と小さな子ぎつねのお話。
(偽)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9673m/>

神様なんて大嫌い

2011年4月12日14時31分発行